

学校長式辞

学校の東門の梅の花に続き、今は、皆さんが登校するのを迎えてくれる西門の桜の花のつぼみもふくらんできています。今、お渡ししたこの証書は、家族の方がみなさんを大事に育ててくださった証（あかし）です。学校の先生方がみなさんを真剣に指導してきてくださった証です。そして、何よりも、みなさんが、自ら志願し、本校へ入学し、2年間または3年間、仲間を大切に、努力を積み重ねてきたということの証です。

本科3年生の3人は、人数が少ないことを強みにしていこうと、修学旅行や運動会、進路の活動などを通して、相手を思いやることや物事をやり切る力と心を身に着けました。

専攻科2年生のおふたりは、本校の最高学年の自覚を持って、「すずかけ工務店」を発展させ、そのなかで自分自身の歩く道を着実に決めてきました。中央聴覚支援学校の校長をはじめ教職員は、皆さんの成長と活躍に、誇りを持っています。

さて、昨年秋のデフリンピックに続き、この冬、イタリアでの冬季オリンピックが終わり、パラリンピックもまもなく始まります。デフリンピックやオリンピックでは、金メダルを取った選手、メダルの期待を受けたものの、いい結果が出せなかった選手、ケガやトラブルのため本来の力を出すことができなかったように見えた選手。テレビやネットから観る、競技中の姿はどの選手も輝いて見えます。そして、私たちに感動とともに、2つの「心」を教えてください。

1つめは、「感謝の心」です。オリンピックでは、競技後に、ほとんどの選手が、家族やスタッフ、応援してくれた方々への感謝の言葉を話していました。まずは、皆さんもこのあと、教室に戻り、先生や友だち、後輩たちに、家に帰ったら、家族の方々に、少し恥ずかしいかもしれませんが自分の言葉で、「感謝」の気持ちを伝えてください。

2つめは「挑戦の心」です。試合後のインタビューで、「今の競技を振り返って、どうですか」との質問に、何人もの選手が「オリンピックをめざし、4年間、頑張ってきた結果です」と話していました。結果はさまざまでしたが、他の選手との競争ではなく、これまで一心に努力してきたアスリートとしての誇りだと思います。目標に向かって「挑戦し続ける」なかに自信もついてきます。

卒業される皆さんは、これからも「感謝の心」「挑戦の心」を持ち続けてください。

保護者の皆さま、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の高等部での年月は、大人への成長を見守る毎日だったかと思います。学校からは御家庭でのご協力をお願いすることも多くありました。ありがとうございました。それぞれ別々の道に進みますが、中央聴覚支援学校で築いた絆をお子様大切にされるよう、これからも見守っていただければと思います。

来賓の皆様、公私ご多忙のなか、本日は卒業生の旅たちをお祝いに参列いただき、ありがとうございます。今後も、本校へのご支援のほどをよろしくお願いいたします。

人生のオリンピックに「敗者」はいません。いるとすれば、それは『挑戦しなかった』人だけだと思います。みなさんが、これからも、「感謝の心」と「挑戦の心」をエネルギーに、新しい道を堂々と歩んでいくことを願い、お祝いのことばとします。

令和8年3月3日
大阪府立中央聴覚支援学校長